

[H29年頭訓示]

H29-1-10
矢野弘典

脱皮の年としよう

明けましてお目出とうございます。今年も宜しく申し上げます。

暖かい正月で、ご家族と共に英気を養われたことでしょう。昨年は「着実前進」を目標とし、お陰様で確かな一歩を踏み出すことができました。ご尽力を頂き、有り難うございました。

私は本年を「脱皮」の年にしたいと考えています。

ところで、今年の干支は「丁酉」（ひのととり）です。「丁」は安定を意味し、「酉」は果実が熟した姿を表します。過去の酉年を振り返ってみると、第2次世界大戦の終結など一つの時代の終わりを告げる出来事とともに、人類初の月面着陸や東名高速道の全線開通など新たな出発となる明るい話題も一杯です。センターや三公社の立ち位置を確かめ、新しい安定に向かって進む時が来たと思います。

新しい安定を得るためには、私たち自身が大きく「脱皮」することが必要です。脱皮とは、古い殻を捨てて、心機一転して新しいスタート切ることです。『大学』に、「まことに日に新たに、日々に新たに、また日に新たなり」という言葉がありますが、同じ意味ではないでしょうか。『大学』は薪を背負った二宮金次郎が手にしている本で、掛川の大日本報徳社で教わりました。また、お正月のお節料理に欠かせない海老は、長寿の象徴として大変めでたい生き物ですが、その理由は何度も脱皮して永らえるからです。

センターと三公社も是非そうありたいと思います。センターは本格的に事業内容を充実する時となり、三公社も県や市町、さらには県民の期待に応えて、新事業を具体化する時となりました。今年はセ

ンターの一体化をさらに進め、社会的にも存在感を高め、事業の持続可能性を追求したいと願っています。

さて、経営のあり方の基本は、これまでと同じです。具体的な施策は時とともに変化しますが、基本にある考え方は変わりません。次の三つです。

第一は、「お客様とともに歩む」経営理念を徹底する。

第二は、既存事業の質を高め、新規事業に挑戦する。

第三は、予算を達成し、健全経営を実現する。

第一の点は、仕事に対する基本姿勢であり、「お客様とともに歩む」経営理念を日々の業務の中で実行しましょう。これが単なる掛け声に終わるようでは、センターや公社の将来はありません。

この点で、去年は嬉しい事例がありました。公表しましたのでご承知のとおりですが、パトロール中に問題の前兆をいち早く発見し、ただちに対処して事故の発生を未然に防いだケースです。暮れに業務功績表彰の年間大賞として表彰した案件でした。県営住宅の壁に取りつけた電気配線盤から出たチューブに、数条の毛糸のような薄茶に変色した筋模様をパトロール中に発見し、早速チェックしたところ、盤の中に水が溜まって錆が流れ出たものでした。さっそく修理をし、建屋全体の停電はおろか家電製品の大量破壊といった大事故の発生を、未然に防ぐことができたのです。パトロール中に危険な兆候を発見した、住宅公社大沼さんの眼力と行動力も見事ですが、それを最も高く評価した審査委員会の皆さんにも、心から敬意を表します。

業績表彰の他の事例も、この大賞と同じように現場主義に徹した結果生まれたものばかりです。皆さんの発表を聴きながら、私は深く心を打たれました。今日は一例しか紹介しませんが、本当にありがとうございます。

現場主義とは、「現場に立って考え行動する」ことです。計画を立てる時にも、問題が発生した時にも、常に現場に立って考え行動することによって、一番望ましい解決策が生まれます。常日頃から現場に立つ習慣を積み重ねれば、前兆あるいは兆し、言いかえれば良い芽も悪い芽も初期の段階において把握し、良い芽は育て、悪い芽は摘むことができるようになります。後に大きくなった問題が、前兆なしに発生することはありません。必ず現場は数多くのメッセージを発し続けているのです。しっかり眼を開き、耳を澄まして、なるべく小さな内にそのメッセージを捉えるよう感度を高めましょう。

また、そのメッセージの一つが、お客様からのクレームや要望となって表れます。それが大きくても小さくても、お客様との接点として真摯に耳を傾け、迅速かつ丁寧に対処し、納得して頂く努力が必要です。そのようにして、お客様の喜びが反射して私たちの喜びとなるような気風を職場に育てましょう。

第二の点は、まずは各公社の基盤事業について、細かく気配りをし、サービスの質を高め、効率化を進めていくことです。そして同時に、新規事業に果敢に挑戦しましょう。センターでは、道路関連で発注業務支援や道路パトロールを受注し、公共工事発注者支援機関としての公的認定を受ける準備が整いつつあります。土地関連でも地籍調査への参入が進んでいます。住宅公社では、市町からの受託が目前に迫りました。新規事業の開拓は、センターと公社の将来の礎を作る仕事です。そして、仕事が増えて人も増える、成長する団体に育てていこうではありませんか。それが未来を創る今の私たちの務めです。

各部門には中期計画があります。年々それを見直し、直近の年度計画が新年度予算となります。春が来るまでに全員参加で予算と計画を作り、実現に向けて取り組んでまいりましょう。

第三の経営の健全性とは、「決算の健全性」「資産の健全性」「信用の

健全性」の三つを意味します。毎期の決算が赤字続きでは組織は持ちません。バランスシートの健全性も当然のことです。信用の健全性は数字には現れませんが、世間の信用を失墜すれば、たちまち奈落の底に沈むように経営が悪化していきます。信用が先で、数字は後です。「お客様とともに歩む」経営理念を現場主義で実行することによって、信用の健全性、ひいては経営の健全性が高まります。遠回りのようですが、これが一番の近道だと私は信じています。お客様に喜ばれ、信頼され、職員と家族が胸を張って誇れるようなセンターと公社を築くために、これからも力を合わせて邁進しましょう。

終わりにあたり一言申し上げます。ご家族ともども、身心の健康に留意して下さい。そして、悔いのない一年といたしましょう。

明るく、元気で、仲よく、厳しく！

以上